

2018(平成30)年度NBRPショウジョウバエ運営委員会 議事要旨

日 時：2018(平成30)年11月1日(木) 14:30～16:35

会 場：情報・システム研究機構 会議室

出席者：小嶋(委員長)、栗崎、井垣、上川内、木村、後藤、佐藤、鈴木、高野、丹羽、
和多田、川本、齋藤、の各委員

欠席者：明石、嘉糠、倉永、多羽田、松尾 の各委員

オブザーバー：佐貫、大迫(工織大)、近藤、三好、矢野(遺伝研)

日本医療研究開発機構(AMED)：バイオバンク課 笹土主幹

遺伝研：NBRP 広報室長、NBRP 広報室顧問、産学連携・知的財産室

事務局：管理部長、総務企画課課長、研究推進チーム

【議 事】

1. 2. 平成29年度の実績報告と平成30年度の計画と実績報告

齋藤委員から、資料1に基づき、以下の説明があった。

〈第4期の実施体制と達成目標〉

- ・第4期実施体制について、分担課題管理者の愛媛大・和多田教授の定年退職に伴い、杏林大へ移管し、バックアップを工織大で行う。
- ・第4期の達成目標については、①染色体バックグラウンドが均一な高品質の変異体への置き換え、②GOF (gain-of-function) 変異体ライブラリの充実、③他生物種の cDNA の transgenic 系統の充実、④recombinase を利用した高効率の遺伝子導入、⑤NBRP 活動の広報と国際協力の実現、⑥凍結保存の実用化に向けてトランスジェニック系統のプラスミド保存法の実現、⑥各機関のデータベース充実としている。

〈実績報告〉

- ・系統保存数は年々微増、提供人数は横ばい、系統提供数は微減傾向であったが平成30年度は増加傾向である。また、論文数は減少傾向であるが新たな系統が公開されているため、利用が進んでいけば今後の増加に期待できる。
- ・NBRP では論文数が重要な成果と位置付けられるが、過去10年以上、毎年100報以上の論文が出ているので、今後も維持していきたい。

〈JDRC13 告知事項〉

- ・Ehime fly の移行について、2019年4月以降杏林大及び京都工織大にて全て供給される。それに先立ち、2018年12月もしくは2019年1月より杏林大にて一部を供給予定である。

つづいて、平成29年度実績報告と平成30年度計画について、資料1に基づき各機関より以下の報告があった。

国立遺伝学研究所

〈平成29年度実績報告〉

- ・体系的な gRNA transgenic 系統について、新たに1,187系統を収集、公開。
- ・体系的な変異系統の収集、維持、提供。
- ・J-Fly の遺伝研への移管作業がほぼ完了し来年度アナウンスできる予定。
- ・J-Fly の web プラットフォームの構築。
- ・基盤技術整備プログラムにおいて、安定的保存のためより強力なバランス染色体を開発。
- ・第三回ショウジョウバエ多様性研究会を開催。

〈平成 30 年度計画と実績報告〉

- ・体系的な変異系統の収集・維持・提供。
- ・ゲノム情報等整備プログラム（ショウジョウバエゲノム編集関連系統の配列情報整備）が採択され、FRT 系統等の 9 種のゲノムリシーケンス解析を行う。
- ・J-Fly の遺伝研への移管を完了。
- ・基盤技術整備プログラムにおいて、引き続きバランサー染色体を開発。

京都工芸繊維大学

〈平成 29 年度実績報告〉

- ・リソースの収集、維持、提供。
- ・遺伝研へ 4,500 系統をバックアップ。
- ・愛媛大の野生近縁種 264 系統を重複維持。
- ・データベースをアップデートし、付加情報を充実させた。
- ・凍結保存技術の開発。

〈平成 30 年度計画と実績報告〉

- ・始原生殖細胞の凍結保存技術の実用化に向けて、収納ツールの開発・改良、系統間のばらつき評価、保存時間の影響評価、長期保存用プロトコル作成、保有系統への応用。
- ・基幹的ショウジョウバエリソースの収集（愛媛大アジア産ショウジョウバエ系統、ヒト遺伝子の強制発現（UAS-ORF）系統、有用系統の寄託・譲渡を促す活動）・保存（リソースの品質管理・廃棄予定系統の選抜）・提供（データベースの充実、情報公開・広報活動）。

杏林大学

〈平成 29 年度実績報告〉

- ・ショウジョウバエ近縁種突然変異系統等の収集の継続。
- ・ショウジョウバエ近縁種におけるトランスジェニック系統の収集を開始。
- ・愛媛大の 200 系統を移管。
- ・Kyorin-Fly トップページ目の再構築。
- ・系統情報データの充実化

〈平成 30 年度計画と実績報告〉

- ・ショウジョウバエ近縁種におけるトランスジェニック系統の収集。
- ・愛媛大の系統を 9 月までにほぼ移管
- ・Kyorin-Fly から Ehime line が供給できるように更新。

愛媛大学

〈平成 29 年度実績報告〉

- ・国内 3 か所（愛媛、長野、北海道）で採集。
- ・国内大学（東京学芸大、首都大）の収集により、目標達成。

〈平成 30 年度計画と実績報告〉

- ・9 月末に Ehime-fly を閉鎖するため、残りの系統を杏林大、工繊大に移管。

また、以下の意見交換があった。

- ・遺伝研のガイド RNA 系統について、具体的な要望等があれば検討していきたい。また今後スクリーニングした有用な遺伝子については、コミュニティからの要望があった時、適宜対応していきたい。
- ・寄託について、積極的に営業活動していきたいが、遺伝子型等が曖昧なものの受入は確認作業等に時間を要している。できるだけ簡易にできる方法を検討したい。
- ・ウェブ上で寄託者や作成者の氏名を検索できれば、提供数も伸び宣伝効果があるのではないか。

- ・提供数について、以前も議論されたが提供件数の方が利用実績を反映しやすいのではないかと。数にこだわっていると提供数が増えるような系統の収集に偏ってしまい、本末転倒になってしまう。
- ・カード決済について、カード支払禁止や年度末までに手元に明細書がないと、当該年度の執行手続きできない等の問題があるが、デビットカード支払であれば即時決済のため問題ないのではないかと意見があった。
- ・J-Flyについて、ほぼ移管が終わっている。また川本委員より、登録については基本的に個人で登録してもらう予定であるが、一括登録の場合は、エクセルで情報を送っていただければ事務局で登録するとの説明があった。
- ・インドの郵便状況が悪いのかEMSで届くまでに2週間以上要した。インドにあるような系統をストックセンターに置いてもらえるとありがたいとの要望があった。
- ・成果有体物や有体物のMTAを取り交わすことについて、AMED 笹土主幹より権利は守りつつ、過敏になりすぎて研究の妨げにならないように対応していただきたいとの発言があった。
- ・名古屋議定書に関して、遺伝研鹿児島研究員より途上国からの意見が強く、非常に厳しい状況である。特に南米は厳しく国が戦略的に関わっていることもあるため、できるだけ記録を残すことが大切であるとの説明があった。また、生物多様性条約が発効された1993年以降のものが対象であるので、ご相談いただければ法律と照らし合わせながら、できる限り対応していきたいとの発言があった。

3. その他

全体的なことに関して、以下の意見交換が行われた。

- ・齋藤委員より、国立遺伝学研究所における「提供手数料の見直し」について、AMEDより提供手数料の適正化に関する提言を受け、現価格の見直しを行った。10年程前に策定した後、消費税増税、人件費や消耗品等の価格高騰があったため、2017年度の提供数を元に、作業の合理化等を勘案し、また2019年10月からの消費税増税を加味して積算した結果、2019年4月より1系統あたりの価格を値上げしたい旨、提案があり、異議なく承認された。
- ・高野委員より、京都工芸繊維大学における「提供手数料の見直し」について、人件費や消耗品等の価格高騰があったため、過去数年間の提供数から積算し直した結果、1系統あたりの価格を値上げしたい旨、提案があり、異議なく承認された。
- ・提供手数料について、AMED 笹土主幹より、安定的・継続的な事業を行うため、提供にかかる人件費等も含め適切に設定することにより、コミュニティ全体で支えていただきたいとの発言があった。

以上